

## JAL不当解雇事件 東京高裁はさらに悪質な不当判決！

135名が上告！  
最高裁で逆転勝利と職場復帰を実現しよう

6月3日客乗、5日に乗員裁判の東京高裁判決が出た。高裁では弁護団も拡大し、ものを言う組合潰しの不当労働行為であること、2010年大晦日の解雇時点で削減予定人員数を上回っていたことを、会社資料をもとに証言した。JALは反論することもできなかった。ところが2つの高裁判決は原告らの示した数字は不正確だと切り捨て、会社更生計画下で管財人による人員削減は合理的だったと解雇を正当化した。管財人を指名し更生計画を認められた地裁を守る判決だ。

両判決とも裁判長は解雇時点で削減数字は何人だったかJAL側に追及もせず、判決にも明らかにしていない。この数字は解雇が正当かどうかの「肝」だ。まさに裁判所としての役割放棄だ。「更生計画あり、よって解雇は正当」というに等しいと宮里邦雄弁護士は評価を下したが、こんな判決を放置すればJAL原告にとどまらず、会社更生法を悪用した解雇がまかり通るだろう。6月26日、京セラの株主総会でJAL 争議支援メンバーの質問に稲盛氏は

「解雇はみな裁判所が決めたこと」と答えたそうだ。裁判所の責任は重い。原告団は6月17日135人で上告。職場に戻るまで闘つと意思を固めている。物心両面で引き続き応援しよう。(Y)

### 派遣法改悪案は ひとまず廃案に！

雨二モ負ケズ「許すな生涯派遣・残業代ゼロ！労働法制の大改悪に反対する国会大行動」に1000名が声を上げる

梅雨入りした6月5日、衆議院第二議員会館前には雨合羽の人々が続々と集まってきた。

派遣業界の要請そのままの派遣法改悪案の審議を行うな、1日8時間・週40時間の労働基準法を守れ、残業代ゼロを狙うホワイトカラーエグゼンプション導入は許さないと、雇用共同アクションが呼びかけたものだ。

集会には労働弁護団の高木幹事長、小池晃（共産）、相原久美子（民主）、阿部知子（無所属）、吉田忠智（社民）の各議員が連帯挨拶。派遣で働く当事者の現状報告や各組合からの決意、歌、シュプレヒコールが雨の中に響き、1時間余の集会を終えた。

派遣法の改悪はすべての労働団体が反対だ。連合も5月27日に日比谷野音を始め全国で取組を行った。派遣法案は、付則の罰則規定で違反は「1年以下の懲役」とすべきところを「1年以上」と書く大ミスが発覚し、今国会では廃案となったが、秋の臨時国会にむけ闘いを強めていこう。過労死促進のホワイトカラーエグゼンプション導入も許さない

安倍首相が岩盤規制にドリルで穴をあけると公言する労働時間規制の緩和は、「時間ではなく成果で賃金を決める」という。労働側のいない産業競争



雨二モ負ケズ「6・5許すな生涯派遣・残業代ゼロ！労働法制の大改悪に反対する国会大行動」(写真=レイバーネット)

力会議が2度にわたり長谷川ペーパーなるものを出し、ホワイトカラーエグゼンプションの導入を狙って6月末には骨太方針にも入った。

厚労省も首相に押し切られ、年収1千万円以上の導入に合意した。だが、経団連の新会長は全労働者の10%の適用を求めている。

年収要件の切り下げ圧力も強まり、大企業は多くが該当し、労働基準法の適用除外になってしまっただろう。「業務遂行・健康管理を自立的に行う」とされ、長時間労働がただ働きとなり、病気になるれば自己責任となる。今国会で成立した過労死防止法も絵に描いた餅だ。労働政策審議会の審議で導入をさせないよう運動を強めていこう。

### 女性登用 本気?!か 政府と経団連の動き

安倍首相は海外を飛び回っては女性の活躍促進を触れまわっている。

6月3日、政府が女性登用義務化を成長戦略に盛り込むと報道され、自公から議員立法で法案が出された。また職場の男女平等実現にブレーキをかけ続けてきた経団連も、4月に「女性活躍アクション・プラン」を発表した。

しかし派遣法改悪で生涯派遣となれば、女性の正社員はますます減っていく。政府や経団連の狙いはほんの一部の女性の登用にすぎない。



6月3日、5日に東京高裁は会社更生計画下で管財人による人員削減は合理的と解雇を正当化した不当判決を出した

(写真=レイバーネット)



# 全労協・第9回組織化合宿に参加して

毎年5月恒例の第9回組織化合宿は、東大名誉教授田端博邦先生から『アベノミクスと「雇用改革」』の講演と、民間と公務の5つの職場から報告を受けて、参加40名の労組役員による真剣な討議と報告により意義ある合宿となりました。とくに、今回は10名の女性組合員が参加し、現場報告や司会、発言と活躍しました。

「今日は、大きな視点で話したい」と始まった田端先生の講演は、1799年イギリスの団結禁止法に象徴される資本主義初期から、2008年リーマンショックの世界金融危機から立ち直れぬまま現在に至る、資本主義社会約2百年余の歴史を振り返るもので、文字通り「大きな視点」からの問題提起となり、私たちが大いに激励するものでした。

また、「私たちは、資本主義社会の大転換の時代を生きている、直面する困難は、ある意味当然である。」と、私たちに覚悟を求められました。そして、「日本を含め世界資本主義は危機だらけで、各国政府は世界金融危機の付けを庶民の税金から払っている。現在の資本主義社会の仕組みは、資本・大株主にとって良い仕組みで、庶民・労働者にとって不都合ばかりだ。」と指摘し、「アベノミクスの狙いは、一握りの上級労働者とそれ以外の労働者への更なる二極化であり、資本の側に徹底的に効率よく安上がりに移がせるものだ。」とアベノミクスを強く批判しました。



全労協・第9回組織化合宿 (5月25日)



集団的自衛権の閣議決定反対に結集 (7月1日)

「資本主義は、現在そのまま不動不変ではなく、歴史的に大変動していることを見抜いてほしい、労働運動は国際的視点で捨てたもんじゃない、希望を持って組織拡大と闘争を頑張ってください。」と激励の言葉で講演を締められました。

現場報告として、全国一般労南合同労組の服部恭子書記長など5名が重要な報告をされました、別の機会に報告したいと思います。

## 組織化合宿に参加して

合宿に関する資料を持っていなかったため、会場に着いてから「アベノミクスとTPP・雇用破壊にどう闘うのか」というテーマだと知りました。TPPのことはあまりよく分からないので、この合宿で勉強できるかと期待しましたが、TPPについての話はなかったので少し残念でした。

田端先生の講演では、資本主義を大きく3つに分けるといふ考え方があったという点が印象に残りました。

私たちが今生きている時代も歴史の一部だという、当然のことを再認識できました。

私自身のことと言えば、就職してから13年間で年収はほとんど変化してないので、あと30〜40年経っても変化はないのだからと考えていました。しかし、善くなるのか悪くなるのかはともかく必ず変化はあるのだと気付きました。そう考えれば、行動することにも希望があるのではないかと思えました。

全国一般東京労組

MUSE分会

柳瀬睦美

## 学習会開催

### TPPはやっぱダメ!

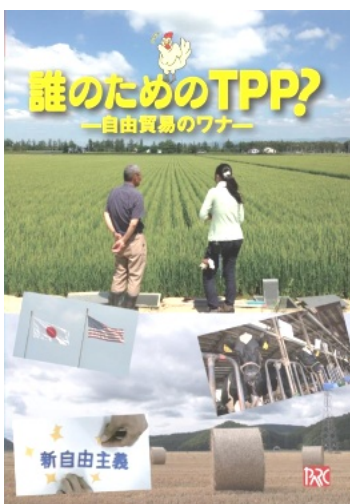
5月30日、全労協女性委員会は、定期的に開催している学習会を、開催しました。今回の学習テーマは「TPP」。

「誰のためのTPP?」37分(DVD)「アジア太平洋資料センター(PARC)を教材に学習しました。」

全体討論では、中原純子さん(全国一般東京労組)より資料を使って問題提起がありました。

参加者は行動などと重なっていたため20名程でしたが、有意義な学習会になりました。

恒例の交流会では、自己紹介やDVDの感想など近況報告を出し合い、準備した料理もあつという間になりました。次は秋頃に計画をしています。テーマや行動などが決まりましたら、ご案内致します。



学習会に参加して(感想)

「TPPの対象は農作物がメインと聞いていたので、対象範囲が大きいことに驚いた。ニュース等で知る情報も農作物関係であり、他分野のことは知らなかった。」



全労協反原発総決起集会 集会基調を全体で確認 (6月18日)

6月18日、全労協反原発総決起集会が開催されました。集会では川内原発の再稼働反対行動の報告、除染作業で働く労働者の実態が克明に報告された。